

2018年10月26日

南オーストラリア州政府御中

南豪州政府における GM 作物栽培についての意見書

パルシステム生活協同組合連合会
代表理事 理事長 石田 敦史

私たちパルシステム生活協同組合連合会は「心豊かなくらしと共生の社会を創ります。」を基本理念として1都11県で活動している生活協同組合のグループです。産直を通じて消費と生産をつなぎ、互いが助け合い、資源循環と持続可能性のある社会づくりを追求しております。

パルシステムグループでは、遺伝子組換え作物による環境への影響の懸念等を踏まえて、遺伝子組換え技術で生産された作物およびそれを主原料として使用された食品は原則として取り扱わないことを方針化するとともに、現行の表示制度における対象外の商品についても遺伝子組換え作物の使用を副原料まで確認して組合員に開示しています。

南オーストラリア州政府の非遺伝子組換え作物栽培モラトリアムについて以下意見を提示させていただきます。

記

▽南オーストラリア州政府の非遺伝子組換え作物栽培モラトリアム継続を強く要望します。

理由：オーストラリア南豪州カンガルー島産の非遺伝子組換え菜種は、現 KIPG 社と共に 2005 年より取り扱いを開始し、152 万人の組合員にも支持されています。カンガルー島の生産者と日本の消費者との相互理解を深め、利益とリスクを分かち合う関係を築きながら、原料産地指定にてカンガルー島産菜種の全量買付けを行って参りました。KIPG 社との対話を通して最小限の農薬使用による栽培も実現しており、組合員からも評価を受けております。また、モラトリアムにより、カンガルー島産菜種およびハチミツを対日向けとしては独占的に買付けて参りました。これらにより日本において年間売上 5 億円となり、農業、食品、食品製造や関連サービス業など、カンガルー島地域経済および雇用へ少なからず貢献してきたと自負しております。今後も、私たちの食とくらしを支える NON-GMO の菜種を使ったキャノーラ油の消費を通じ、南オーストラリア州、そしてカンガルー島への経済貢献を果たすためにも、取扱品目、取扱量拡大ができればと願っています。

以上